

第2章 伊達市の子ども読書活動の取組状況と課題

1. 子どもの読書環境

子どもを取り巻く読書環境に影響を与える可能性の要素の一つに近年の情報通信手段の普及があります。

平成29年度青少年のインターネット利用環境実態調査*3によると、スマートフォンの利用率は、平成26年度に小学生17.1%、中学生41.9%、高校生90.7%に対し、平成29年度はそれぞれ、29.9%、58.1%、95.9%と特に小学生の利用率が高くなってきていることがわかります。

【表1：スマートフォン利用率の推移】

項目	小学生	中学生	高校生
平成26年度	17.1%	41.9%	90.7%
平成29年度	29.9%	58.1%	95.9%

また、SNS（ソーシャルネットワークサービス）*4等を利用したコミュニケーション手段の多様化や、電子メディア（電子書籍等）を利用した読書の増加も見られています。（平成28年度青少年のインターネット利用環境実態調査）

しかしながら、子どもの読書活動は、視覚ではなく言葉から得た情報を精査し、自分の考えをまとめ、それを表現し他者に伝えるという能力を育むとともに、感性を磨き、人生をより豊かなものとするためにも重要なものであることから、第1期計画で掲げた取組とその課題をまとめ、北海道子どもの読書活動推進計画（第四次）を踏まえ、「第7次伊達市総合計画（平成31年度から令和10年度）」及び「伊達市教育振興基本計画（平成31年度から令和10年度）」との整合性を図りながら、第2期計画に生かす必要があります。

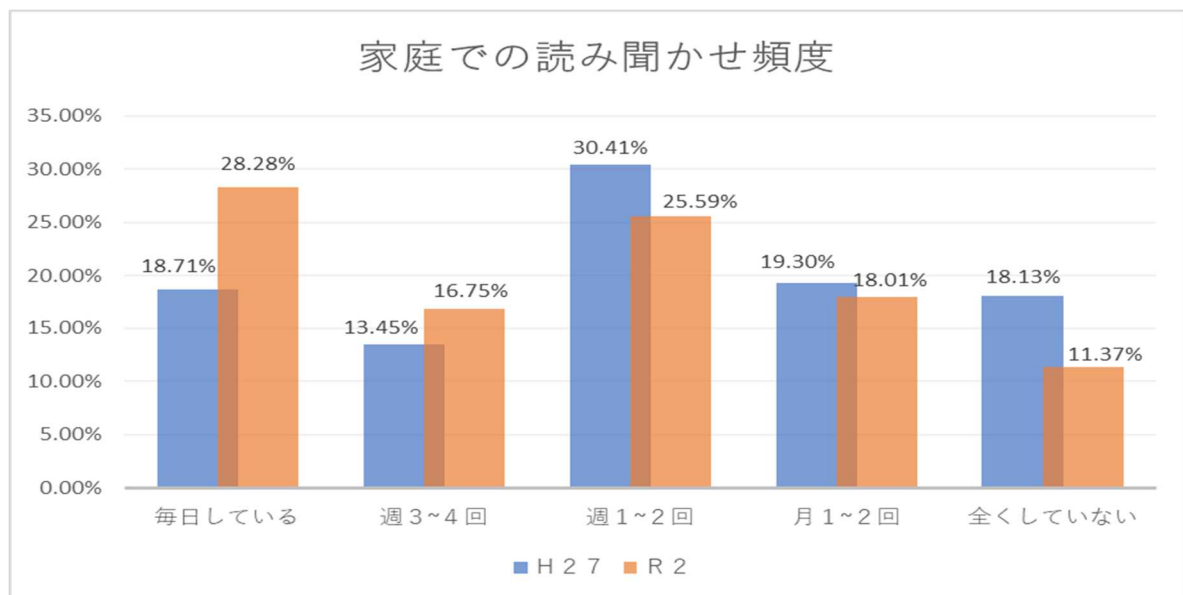
2. 家庭・地域における子どもの読書活動の推進

家庭や地域*5は、子どもが読書への興味や関心を持ち、子どもの読書活動を維持し続けるかという点で重要な役割を担っています。特に、乳幼児期は言葉や感情を育む大事な時期であることから、この時期に家庭や地域で読書に親しむ習慣が身に付くよう家庭での積極的な取組や地域の効果的な事業の実施を進めていく必要があります。

(1) 家庭における子どもの読書活動の支援

- ・家庭での読み聞かせを行っている場合の読み聞かせ頻度として「毎日」とする回答が最も多く前回調査では週1～2回が最も多かったことから、家庭での読み聞かせの定着が推測できます。(資料3：乳幼児を持つ家庭での子どもの読書活動状況調査結果参照)

【グラフ1：家庭での読み聞かせ頻度の推移】



- ・子どもが本に親しめるようなきっかけづくりやその後の成長に際して読書の習慣が身に付くようマタニティ教室での乳児対象の読み聞かせ用絵本の紹介を行いました。
- ・ボランティア団体との協働によるブックスタート事業*6、ブックスタート・ステップ事業*7では、絵本の読み聞かせや年齢にあった図書の紹介（ブックリストの配布）とともに、絵本の配布を行いました。

これらの事業をきっかけに図書館を利用したり、子どもと読書を楽しんでいるなどの声がある一方で、ブックスタート・ステップ事業の参加率が低い状況にあることから、今後は、事業の啓発をより一層行っていくための方法を検討する必要があります。

【表2：ブックスタート事業・ブックスタート・ステップ事業の配布数等推移】

項 目		平成27年度	令和元年度
ブックスタート	対象者	205人	158人
	配布数	173人	133人
	比率	84.4%	84.2%
ブックスタート・ステップ	対象者	215人	172人
	配布数	106人	79%
	比率	49.3%	45.9%

(2) 地域における子どもの読書活動の支援

① 図書館の取組

- ・読み聞かせ会やおはなし会を実施しているボランティア団体と協議を進め、状況にあった開催時間の変更を行いました。
- ・小学校での外国語（英語）の教科化を視野に、英語絵本の充実を行いました。
- ・子どもの授業環境と読書への興味を喚起できる分野の本のみならず、今後学習で求められるであろう学びの一助となる図書の購入に努めました。

② 子育て支援センターの取組

- ・図書コーナーを配置し、絵本や紙芝居のみならず、保護者が利用できる育児書も配置して、本に親しむ機会の創出に努めています。
- ・本を身近に感じてほしいと絵本のPOP*8を掲示し、貸出利用者の増に繋げています。
- ・本に触れる機会の提供のため、絵本の読み聞かせを職員やボランティア、保護者などが子どもの求めに応じて行ってるほか、図書館の団体貸出*9のみならず、子育て支援センター所蔵の図書の貸出も行っています。

③ 児童館の取組

- ・図書室または図書コーナーを配置し、絵本や紙芝居、学習漫画や図鑑等、子どもの年齢や興味・関心に対応できるよう様々な本を配置し、図書に親しむ機会の創出に努めています。
- ・本に興味を持てるような配置やディスプレイに取り組んでいます。
- ・子どもが興味を持っている図書を子ども自身に尋ねるなどして、より子どもに寄り添った読書環境づくりに努めています。

3. 学校等における子どもの読書活動の推進

精神的にも肉体的にも成長が著しい時期である乳幼児期や小学生期に、様々な分野の図書と出会うことは、その後の人生においても影響を与えると考えられます。そのため、読書への興味・関心を広げ、読書習慣を身に付けるとともに、確かな学力の基盤を形成する上で、学校等での読書活動は、重要な役割を担っています。

そこで、学校等においては、子どもの成長段階や興味・関心に応じた読書の楽しさを指導するとともに、継続的な読書活動を推進する必要があります。

(1) 学校における子どもの読書活動の支援

- ・朝の読書活動などの一斉読書を継続したほか、読み聞かせボランティアの協力のもと、子どもが本を身近に感じ、本の楽しみに触れる機会を提供しました。
- ・調べ学習などで学校図書館の利用を促し、学校図書館の利用啓発とともに、図書への親しみを感じるよう努めました。
- ・市立図書館の団体貸出や巡回文庫の利用を通して、学校図書館とは違う図書に触れ、子どもたちが様々な図書への興味・関心を広げるきっかけを提供しました。

- ・児童会や生徒会、図書委員が、図書に親しむ活動を周知することで、自らも図書に関心をもつことができました。
- ・「学校だより」を利用し、図書ボランティア活動や読書への取組の様子を地域や保護者に知らせ、学校での読書活動への理解を深めることができました。

「全国学力・学習状況調査」*10によると授業以外での読書時間で、「2時間以上読書をする」とした児童の割合は、1.5%減っていますが「30分以上1時間未満読書する」児童の割合は大きく伸びるとともに、全く読書をしないという児童は、3.1%減っています。一方で、生徒では10分未満か1時間以上2時間未満の読書以外はすべて減っており、特に全く読まないとした生徒数が当市では3.6%増えています。

全国的に勉強や部活、趣味のため、読書時間、読書冊数ともに、学校段階・学年が上がるにつれて読まなくなる傾向があります。今後は、児童生徒が読書への興味・関心を持ち続け、読書意欲を高めるよう、地域やボランティア等と連携を図りながら読書活動を推進していく必要があります。

【表3：授業以外での読書時間数（括弧内は、北海道の割合）】

項目	平成26年度		平成30年度	
	児童	生徒	児童	生徒
2時間以上	8.2(8.2) %	9.0(7.9) %	6.7(7.7) %	5.8(6.6) %
1時間以上2時間未満	8.9(10.5) %	7.9(9.6) %	12.6(11.3) %	8.7(9.5) %
30分以上1時間未満	14.0(18.2) %	17.2(16.5) %	24.1(19.7) %	15.3(16.7) %
10分以上30分未満	26.6(24.5) %	23.1(21.4) %	23.3(24.1) %	22.7(22.5) %
10分未満	18.1(15.4) %	12.4(12.1) %	12.2(15.0) %	13.6(13.8) %
全くしない	24.2(23.0) %	30.3(32.5) %	21.1(22.1) %	33.9(30.7) %

(2) 保育所（園）や幼稚園における子どもの読書活動の支援

【表4：児童関連施設で所蔵している図書の冊数とその内訳】

【単位】冊数：冊 割合：%

区 分	箇 所 数	絵本		紙芝居		学習マンガ		図鑑		その他		うち育児書		うち布絵本		合計
		冊数	割合	冊数	割合	冊数	割合	冊数	割合	冊数	割合	冊数 割合		冊数 割合		
												冊数	割合	冊数	割合	
1 保育所(園)	8	5,207	56.10	2,706	29.16	0	0.00	226	2.44	1,142	12.30	1,139	12.27	3	0.03	9,281
1施設平均書籍数		651	-	338	-	0	-	28	-	143	-	142	-	0	-	1,160
2 幼稚園	2	553	19.72	141	5.03	0	0.00	100	3.57	2,010	71.68	2,010	71.68	0	0.00	2,804
1施設平均書籍数		277	-	71	-	0	-	50	-	1,005	-	1,005	-	0	-	1,402
3 子育て支援センター	3	813	80.42	51	5.04	0	0.00	5	0.49	142	14.05	83	8.21	59	5.84	1,011
1施設平均書籍数		271	-	17	-	0	-	2	-	47	-	28	-	20	-	337
4 児童館	3	754	71.47	62	5.88	63	5.97	142	13.46	34	3.22	32	3.03	2	0.19	1,055
1施設平均書籍数		251	-	21	-	21	-	47	-	11	-	11	-	1	-	352
合計	16	7,327	51.78	2,960	20.92	63	0.45	473	3.34	3,328	23.52	3,264	23.07	64	0.45	14,151
1施設平均書籍数		458	-	185	-	4	-	30	-	208	-	204	-	4	-	884

- ・ 図書コーナーを配置し、絵本や紙芝居、図鑑等、多岐にわたる子どもの年齢や興味・関心に対応できるよう様々な本以外にも、育児書を配置し、保護者が図書に親しむ機会の創出にも努めました。
- ・ 年長児を対象に、朝の読書又は一斉読書を行い、読書習慣を身に付けるための基礎作りの一助としました。
- ・ 読み聞かせやお話し会をほぼ毎日行うほか、ボランティアによる読み聞かせなどを取り入れるなどして、子どもが本を身近に感じ、親しむ機会づくりに力を入れました。
- ・ 市立図書館の団体貸出を利用し、子どもが様々な図書への興味・関心を広げるきっかけを提供しました。

4. 市立図書館の整備・充実

0歳から18歳までの年間利用者数を、平成26年度と平成30年度で比較すると18.2%の減に対し、同時期の子どもの人口比では9.3%の減であることから、利用者の減少が著しいことがわかります。

これは、第2章前段でも述べたとおり、SNSや電子メディアの利用による影響も考えられますが、今後は、より一層、子どもが居心地よく市立図書館を利用できる環境づくりを進めるため、求められていることの情報収集に努め、利用を促す周知を進めていくことが必要です。

【表5：子どもの利用者数と人口の推移】

内 容	平成26年度(A)	平成30年度(B)	増減率(B)/(A)
0~18歳利用者数	14,022人	11,612人	82.8%
0~18歳人口（各年度末）	5,240人	4,751人	90.7%

子どもの読書活動の推進のため、市立図書館を本と出会い読書を楽しむための中心的な施設に位置づけ、子どもにとってよりよい読書環境づくりを推進していますが、一方で、利用者からは図書の並べ方、テーマに沿った図書コーナーやおすすめ本の紹介などを求める声のほか、子ども連れでも楽しめる環境づくりが求められています。（資料3：乳幼児を持つ家庭での子どもの読書活動状況調査結果参照）

(1) 図書資料、設備等の整備・充実

- ・絵本コーナーや閲覧席の配置を見直し、図書を選びやすくするとともに、閲覧しやすいコーナーづくりに努めました。
- ・調べ学習等に対応できる図書資料等の充実に努めるとともに、新たに書架を配置し、学習コーナーの充実に努めました。
- ・児童書コーナーに館内案内図を掲示したほか、表紙を見せての展示、POPを利用した図書の紹介など、より一層、図書を手に取りやすい環境づくりに努めました。

(2) 機能の充実

- ・三市で共有している図書館情報システムを利用した、三市図書館の蔵書検索・貸出・予約・図書のリクエスト及び他公立図書館等との相互貸出事業の利用周知を図りました。

【表6：三市相互貸借及び他公立図書館等相互貸出の推移】

内 容	平成26年度(A)	平成30年度(B)	増減率(B)/(A)
三市相互貸借	18,241冊	21,605冊	118.4%
他公立図書館等相互貸出	651冊	557冊	85.6%
合計	18,892冊	22,162冊	117.3%

- ・関係団体等への団体貸出や連携の強化に努めました。
- ・読書に関するレファレンスサービスの充実に努めました。
- ・市立図書館登録ボランティアの拡充に努めるとともに、協働による読書環境の整備を行いました。
- ・高校生ボランティアの協力によるPOPを活用した図書の紹介を行いました。
- ・司書の研修や先進地視察への参加を促進しました。

5. 学校図書館の整備・充実

学校は、子どもが学習する場であるとともに、豊かな心を育む場としても重要な役割を果たしています。そして、心の成長を手助けする読書活動は、言葉を学び、表現力を高め、想像力を豊かにするにあたり欠くことができない貴重な活動であり、その場として学校図書館の整備・充実に努める必要があります。

学校図書館の図書資料は、文部科学省が定める「学校図書館図書標準」冊数を基準として、整備を進めており、8割の学校において図書のデータベース化を進めているほか、市司書教諭等の研修参加も進め、読書活動への理解を学校全体で共有する取組を進めています。

一方で、学校図書館の図書のうち、色あせや出版年の古い図書等子どもが手に取りにくい図書が存在していて、平成30年度に大滝小中学校が義務教育学校へ移行することに伴い、学校図書の整理を市立図書館と連携し行いました。

今後は、学校の統配合を踏まえた上で、図書資料の更新や子どもが読書活動により一層、興味・関心を持ち、利用できる読書環境の整備に努める必要があります。

6. 市立図書館・学校等における普及・啓発

子どもの読書活動を推進するためには、社会全体でその意義や重要性を理解し関心を深めることが大切です。

そこで、市立図書館、学校等のほか、関係機関やボランティア団体等と連携協力し、事業を通して子どもの読書活動を普及・啓発する活動を進めてきました。

- ・「こどもの読書週間」*11に実施する「春の子ども読書まつり」を、令和元年度から「春の読書週間」とし、より図書に親しめるよう「本の森」などの新規事業を始め、気軽に図書に触れ合える機会を増やすよう努めました。
- ・令和元年度に、小学生から高校生までを対象に、お勧めしたい図書の紹介カードを作ってもらい「みんなのオススメ本POPコンテスト」を実施し好評を得たことから、令和2年度以降もを行い、入賞した作品を市立図書館本館内で該当図書とともに展示することで、図書の身近さや新しい分野への興味を誘う機会を提供しました。
- ・平成27年2月に開設された市の子ども向けホームページ「キッズページ」内に、毎月おすすめ本や新着図書の紹介を行い、読書への興味・関心を深める情報提供に努めました。

平成30年度以降はホームページの構成が一部変更したことなどから閲覧数は減っていますが、一定数の閲覧があることから、今後もキッズページの情報提供の強化に努める必要があります。

【表7 : キッズページ閲覧数の推移】

ページタイトル	H27	H28	H29	H30	H31(R01)
図書館へ行こう【トップ】	784	659	751	415	406
図書館へ行こう！	292	224	214	403	263
9月のおすすめの本	382	441	380	470	261
9月の新しい本	696	608	529	645	332
調べ（しらべ）もののお手伝い（おてつだい） ※H30.7.3公開	0	0	0	52	30
読書（どくしょ）通帳（つうちょう）のおしらせ ※H28.11.11公開	0	143	243	232	111

- ・市立図書館での配布物のうち、毎月配布している「新着図書案内」は、表紙をカラーにして手に取りやすくし、内容についても文字を大きくするなどして、より見やすい紙面づくりへと刷新しました。
- ・休館案内や市立図書館主催事業の周知は、市内小学校をはじめ公共施設等へのポスター掲示やチラシの配置を依頼しました。
- ・館内に新たに掲示場所を確保し、ボランティア団体等が行う事業の周知を適切なタイミングで行うよう心掛けました。